

2005-06年 12-1 月号

Vol.1 No.5 (通巻第5号)

明日の医療を考える

Astellas Square

〈特集〉 睡眠障害 —— 不眠がもたらす弊害とその対策





わが手よ 心をも癒せよ

山形大学医学部 消化器・一般外科
木村 理

手術の時には、病巣を完全に除去する「わが手」であるよう日々努力を積み重ねておりますが、回診の時の診察では、患者さまの心が少しでも癒され、病気が早く治るよう祈っております。回診の時に患者さまが求めているのは、難解な医学の説明より、心のこもった「手のぬくもり」だろうことを信じて……。

きむら・わたる

1979年東京大学医学部卒業。84年東京都老人総合研究所臨床病理学部門研究員。87年獨協医科大学越谷病院外科講師。90年ヴュルツブルグ大学（ドイツ）研究員。92年東京大学医学部第一外科助手。97年同肝胆膵・移植外科講師。98年山形大学医学部消化器・一般外科（第一外科）教授（現職）。日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本膵臓学会などに所属。ハルビン医科大学客員教授。



協調

大阪大学大学院 医学系研究科
消化器内科学
林 紀夫

最近、医学に求められる要求水準は日々高くなっている。医療は最新の知識と高度な技術による診断と治療を求められる時代になり、チーム医療は当然のこととなった。また、研究においても一人細々と行う時代は終わり、目標に向かって共同研究を行わなければ、国際的に大きな成果をあげることは困難な時代になった。このような時代を生きていくためには、“協調”の精神は特に重要である。協調とは同じ意見を持つ人が同じ方向に進むのではなく、性格や意見の異なる者同士が調和を図り、同じ方向に進むことである。今後はそれぞれが自分の意見を持ち、異なる意見を持つ者が同じ方向に切磋琢磨しながら進むことが重要な時代になると思っています。

はやし・のりお

1972年大阪大学医学部卒業。87年同第一内科講師、97年同助教授、98年同大学院分子制御治療学教授を経て、2005年より同医学系研究科消化器内科学教授（現職）。日本消化器病学会、日本肝臓学会などに所属、現在日本肝臓学会理事長などを務める。